

公共施設の適正な配置に関する ワークショップ かわらばん

2024年6月 発行

佐倉市 資産経営部 資産経営課

043-684-6110 fm@city.sakura.lg.jp

地域会
第2回

- 開催時期: 令和6年5月～6月
- 場所 : 地区の公民館など
- 参加者 : 49名

- 地域回第2回のワークショップでは、参加者が必要としているサービスや重要な行動を棚卸しし、地域の課題を把握することを目的としてワークを行いました。
- 地域のごとの特性を把握するため、以下の5つの地区に分けて開催し、合計11の班に分かれてワークを行いました。



地区	日時	場所	人数	班数
臼井・千代田	5月11日(土) 午前	臼井公民館	7名	2班
志津北部	5月25日(土) 午前	志津コミュニティセンター	10名	2班
志津南部	5月25日(土) 午後	西志津ふれあいセンター	13名	3班
佐倉	6月8日(土) 午前	中央公民館	16名	3班
根郷・和田・弥富	6月8日(土) 午後	南部地域福祉センター	4名	1班

1.趣旨説明

- 本ワークショップは、公共施設再配置方針を策定するに当たり、「地域の声」をしっかりと把握し「行政と市民」で一緒に考える場であることの説明を行いました。



地域に必要な機能、
アイデアを出していき
ましょう!

2.啓発講座

- 参加者に施設にかかるお金の必要性を知ってもらうため「施設のライフサイクルコスト」に関する啓発講座を行いました。



3.自己紹介

第1回の振り返り

- ワークを始める前に参加者同士の自己紹介と第1回全体回の振り返りを実施し、各班で感想などを話し合いました。
- 各班に市の若手職員と千葉大学の学生がファシリテーターとして参加しました。

4.ワーク① 行動分析

- 参加者の普段の行動と場所を、利用頻度別に色分けした付箋に書きだしを行いました。
- 次にその付箋を地図上に貼り付け、各班で重要だと思う場所を5つ程度抽出をしました。

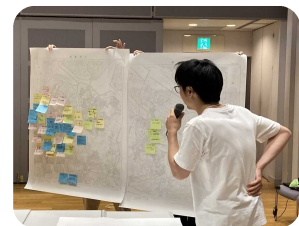


ワーク内でお気に入りの
場所を紹介し合う場面も



6.発表・講評

- 各班の代表者にワークの内容をまとめて発表を行いました。
- 最後に、ワークショップの進行を担当いただいた千葉大学の柳澤要先生または、湯浅かさね先生に講評を頂きました。



柳澤 要 先生

工学博士／一級建築士

千葉大学大学院 工学研究院
融合理工学府 創成工学専攻
建築学コース 教授

湯浅 かさね 先生

博士(学術)／一級建築士

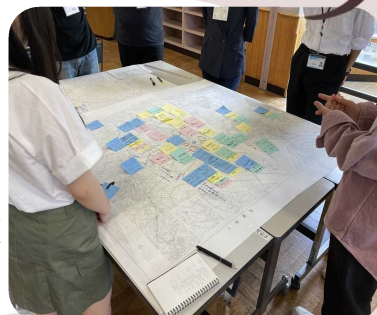
千葉大学大学院 工学研究院
融合理工学府 創成工学専攻
建築学コース 助教

5.ワーク② 地域課題の抽出

- 参加者が普段の生活で感じている地域の課題を青色の付箋に書きだしを行いました。
- ワーク①で使用した地図上に貼り付け、行動と課題の関係性を各班で話し合いました。



施設以外の市の課題
も多いね



千葉大学と佐倉市は令和5年度から公共施設の
適正な配置について共同研究を行っております。

第3回ワークショップでは、この結果を踏まえ、課題解決のアイデアをまとめたポスターを作成します!

参加者の声



地域のことをみんなで考える機会をもてたこと、とても貴重な体験と思えました。(60代)

もっと積極的に自分のまちを調べるべきだと思った。課題についてはみんなが意識して考えることが大切だとわかった。(10代)

そもそもどのカテゴリに対して公共施設が必要なのか、自分でもよく考えてみるのも良いかと感じました。(40代)

年代やおかれている状況、車の有無などでも視点が違う。(30代)

住民どうして地域のイメージを共有でき、新鮮だった。同種施設への理解がまだ不十分であったと気付いた。(20代)